

## 編集を終えて

一世紀といえば長い人類の歴史のなかのひとこまにすぎませんが、海蔵学校誕生から百年にあたるこの時に、百年誌編集にたずさわることができたのは大変ではありましたが、やりがいのある仕事でした。

縦書き、横書き、大きさなど、あれ、これと迷った末、気軽に見ていただけるもの、時々出して眺めていただけるものと考え、写真を多く取り入れて「目で見える百年誌」を心がけました。

仕事を進めていくうちに資料保存の必要、小さなことでも記録の重要性を痛感しましたが、幸い、卒業証書、教科書、連絡表、写真など貴重な資料を地区をあげてご提供いただきありがとうございます。もし、このような資料がなかったならば、本誌は実現できなかったと思います。

また、家庭へおじゃまし、過ぎし日のようすをお聞かせいただいたり、明治、大正、昭和前期、後期と4回の座談会では、心の奥深くに残っている少年の日の思い出を語っていただき、本誌の内容をより豊かにしていただきました。

なお、常任委員の方々に資料を収集いただいたこと、すでに転出された内山治男、天野宏文両先生に、毎週末、資料の写真撮影にご尽力いただいたことをここに記録し、感謝の気持ちを表わします。

最後に、資料収集からわずか1年たらずの仕事ですから、もし、誤りがあれば、今後、二百年誌、三百年誌編集のためにも、海蔵小学校まで、ぜひ、お知らせくださるようお願い致します。

(編集委員 川島記)



大正時代を語る (50・1・18)